

プーチンのアレッポの勝利後、和平会談が“停止”

【訳者注】この論者の言う通り、ロシアとその同盟軍による（テロリストに奪われていたシリアの）アレッポ奪還は朗報であり、シリア難民が帰国できる可能性を開くものである。しかし、末尾に引用した読者のコメントによると、フランス国営ラジオは、これを逆にして報道し、アサドの暴虐を逃れる難民がまた増えたと言ったようである。米 - NATO 側は、プーチンとアサドさえいなければ難民問題は解決するかのようになっていたから（2015/9/19 「シリアの混乱は誰の責任かって？ プーチンだよ」）、その線で報道と解説を続けなければならないのだろう。どこまで腐った報道機関だろうか！ このコメントに対する支持投票が特別多いのは頷ける。

By Mike Whitney

February 5, 2016

「これは、アレッポにおけるジハーディストの存在の終わりの始まりだ。4年間の戦争と恐怖ののち、人々はやっと、終わりが向こうに見えてきた。」

—Edward Dark, Twitter, Moon of Alabama

北シリアでのロシア主導の攻勢を食い止めようとした最後の努力は、水曜日、シリア・アラブ軍 (SAA) が、国家防衛軍 (NDF) とロシア空軍に援護されて、北西アレッポ地域の Nubl と al-Zahra 村の 40 か月にわたる包囲を破ったとき、失敗に終わった。オバマ政府は、ぎりぎりの時間になって、ジュネーブの和平会談で休戦合意を取り付けることで、一斉攻撃を未然に防ごうと考えていた。しかしシリアの装甲部隊が、アルヌスラの防衛線を押し破り、ジハーディストを退散させたというニュースが入ったとき、国連大使 Staffan de Mistura は、交渉を停止し、暗黙の裡にこのミッションが失敗したことを認めた。

「私は初めから、会談のための会談はやらないと明言していたのだ」と、大使は記者団に語り、彼は、米・露に導かれた国際的な援護軍の、地方の勢力をも引き込んだ、戦争の両サイドを支援する者たちから、緊急に助けをもらう必要があったと話した（ロイター）。デ・ミストラは次に、数時間前に形式的に始まったばかりの、死産の交渉の“一時停止”を通告した。戦場での展開を見て、このイタリア - スウェーデンの外交官は、政府軍が軍事的手段で解決しようとしているときに、交渉を続けるのは無意味だと確信した。

数か月をかけて、この国全体の敵の拠点を攻撃し続けた後で、ロシアの戦略は実を結び始めた。親政府地上軍は戦場で版図を広げ、厭戦気分の反乱軍を、ほとんどすべての前線で押し返した。トルコ国境の幅広い地域が、現在 SAA の支配下であり、至るところでロシアの爆撃機が、士気を失った反体制軍に多大な損害を与え続けている。水曜日のヌブルとザーラの町への稲妻的攻撃は、ケーキの上の氷にすぎなかった。大胆な作戦行動がトルコへの重要な補給線を断ち、一方、この国最大の都市の回りに、軍事的首縄をかけることによって、何百人ものテロリストが出口を失い、叩かれる大鍋の中に立ち往生している。

過去 2 週間、オバマのチームは、不安を募らせながら地上での展開を見守っていた。これこそ、ジョン・ケリー国務長官が、さまざまの参加者の出席合意さえ得ていないのに、ジュネーブの緊急和平会談を招集するために、急いで外交使節団を集めた理由である。ほとんど恐慌に近い慌てた感じが最初から手に取れるようだった。狙いは決して、交渉による決着や名誉ある平和でなく、(雑誌「外交政策」が書いたように)「アレッポ地域全体に幅広い“凍結”を実現させ、それを後に、別の地域でも再現させる」ことだった。これが本当の目的であり、あらゆる可能な方法で流血と、アレッポの不可避的な包囲を防ぐことだった。

ヌブルとザーラの奪還によって、ジハーディストには、武器、食糧、燃料を彼らの都市の要塞に移送する、一つのルートしか残らなくなる。親政府軍が北東の Bab al-Hawa のブロックを破れば、ループは閉ざされ、円周は縮まり、大鍋は割られて、都市の内部にできたより小さい飛び地になり、テロリストは降伏するか、確実な消滅を待つかどちらかになる。ロシアの先導した連合軍による水曜日の勝利は、その日が、誰が予想したより早くやってくるかもしれない兆候である。

注目すべきことは、ブルッキングズ研究所(米政府シンクタンク)の上級研究員 Michael O'Hanlon は、“穏健派”を用いて“シリアを脱構築”し、“自律ゾーンを作りだす”案を作った人物だが、この人が、オバマとケリーに忠告して、「現在のシリアの和平会談のような失敗の論理を追及するのをやめて、連邦モデルを探り、可能な限り多くの主要役者や同盟者を買収し込む」ことを忠告したことである。要するに、シリアをより小さな領域に分割する(そして地方軍や地方権力者やジハーディストに支配させる)アメリカの計画の主たる立案者が、そもそもの初めから、和平会談は失敗の運命にあると考えていたということである。

オハンロンは、アメリカは“2万人の戦闘部隊”を“占領を維持するための正しい政治的モデル”の任につかせる必要があると言う。このシンクタンクのアナリストによれば、「ケリーに可能などんな休戦も、…砂の土台の上に築かれる」だろう、なぜなら、それを“穏健な”軍隊に維持させようとしても、彼らは SAA や ISIS よりもはるかに弱いという単純な理由からだ。それは、新しい“統一”政府の権威を維持するに十分な、最終的な調停を強行して

強い軍隊を置くどんな方法もないことを意味する。

オハンロンの見るところでは、西側のエリートは、シリアについては大きく考えが分かれている。タカ派はいまだに、更に介入を、米と EU と NATO の更なる干渉を、そして米と同盟軍の“地上部隊”を送って、この国を無限定の期間、占領せよと言っている。それに対して、オバマ政府は、関わりを最小限にしようと考え、反対派を必死になだめようとしている。

これが意味するのは、オバマが政権を下りて、新しい大統領がより強硬な戦略を取ろうとしたとき、シリアの問題が再浮上するだろうということである。権力体制にある多くの人々は、相変わらず、シリアを分割して、アメリカの傀儡をダマスカスに据えるつもりでいる。これは変わりそうにない。ロシアに導かれた連合軍は、その作戦を成功させ、テロリストを壊滅させ、国土全体に安全保障を取り戻す、わずか手前まで行っている。できるだけ早く戦争を終わらせ、シリア難民、素早く行動しなければならない。

(マイク・ホイットニーはワシントン州に住み、*Hopeless: Barack Obama and the Politics of Illusion* (AK Press) への寄稿者。 *Hopeless* は Kindle 版でも入手可能、連絡先は fergiewhitney@msn.com)

コメントの例：

Clovis:—

ウソつきの主流メディアが、どんなものかを知っていただくために—。

きょうのフランスの国営ラジオニュースは、アレッポの陥落は、“アサドから逃げ出してトルコ国境へ向かう亡命者”の何千という人々の洪水の“災害”をつくり出しました。聴取者の皆さん、これらは“殺し屋”を逃れる“無実の人々”だと考えてください、(テロリストや傭兵が逃げ出して、その長く待たれた裁きに向かっているのではない)と言っていた。このニュースのもう一つの意図は、国民をなだめすかして、仏英米 - NATO が、あやうくロシアと主権国家シリアが再建するところだった平和をつくり出すのに、どれほどの困難があるかを覚悟させることだった。マインド・コントローラーが、このような予防線を張ることを考えれば、この先、更に嫌悪すべきことが待っていると、我々は予想すべきだろう。